

〔江戸會誌〕旅費

京都江爲御用罷越候御勘定奉行

御暇金七枚

時服のしめ白ムク、御紋付、羽織御紋付チリメン

〔青標紙三編〕

一御召御紋服着用之儀致拜領候者、代々持傳致着用候而も不苦儀ニ御座候哉、

又者何代目迄は致着用不苦其餘者不相成ト申御定メも有之候義ニ御座候哉此段御問合申上候以上、

四月朔日

蒔田權佐

下札書面御召御紋服、家ニ而拜領之儀候得ば、代々致着用不苦候、

文化六丑年三月

御召御紋服之義ニ付水野中務江問合

一御召御紋服着用之儀、一代致拜領候得ば、代々持傳致着用候而も不苦儀ニ候哉、且又由緒有之讓請致着用候義何々之續迄は不苦候哉、此段及御問合候、

三月廿四日

内藤外記

下札書面御召御紋服家ニ而拜領候義ニ候得ば、代々着用不苦候得共、大概年數程合可有之事ニ候、且祖父母、妻、子、伯叔父母、舅迄は、讓請不苦儀ト存候、

一此間及御問合候、御召御紋服着用之儀、御下札之通承知候、右は相互ニ讓請致着用不苦候哉、妻、讓請候儀も同様不苦候哉、猶又此段及御問合候、以上、

四月廿二日

内藤外記

下札書面御召御紋服讓請候儀、先達而及御挨拶候通り、近親相互ニ讓請不苦義ト存候得共、妻、讓請候義は、申立ニは難相成筋ニ被存候、